

本当の解決策

2020. 6. 17

高層ビルエレベータの教訓というお話がある。マルタ共和国の医師、心理学者、作家、発明家であるエドワード・デボノという人が、「水平思考」という本の中で紹介している発想転換による問題解決のエピソードである。

ある超高層ビルのオーナーが、エレベータの数が足りないという問題に直面した。そのビルで働く人々の数に比べてエレベータの数が少なかったため、毎朝のラッシュアワー時に、なかなか来ないエレベータに対して人々の不満が溢れたのである。

そこで、高速エレベータに取り替える、建物の外部にエレベータを設置する、勤務時間をずらすなど、様々な解決策が検討されたが、いずれもコストのかかる実現性の無いアイデアであった。

しかし、ある人物のアイデアが、この問題を見事に解決した。それは、エレベータのドアの横に鏡を置くという解決策だった。このアイデアを実行することによって、人々が待ち時間を苦にすることはなくなり、不満は解消されたのである。

このエピソードは、問題解決における発想転換の大切さを教えてくれる。その一方で、このエピソードが教えてくれる、もう一つの大切なことを忘れてはならない。我々は、いつも問題解決の鍵を最先端の技術や革新的な制度に求めようとする。だが、その本当の鍵は、しばしば人間心理の機微にある。我々は、社会において大きな問題に直面したとき、いつも革新的な技術や大胆な制度改革によって、その解決を図ろうとする。しかし、しばしばその本当の解決策は、全く別なところにある。

6月1日（月）から毎日学校に来るようになり、8日（月）からは部活動も始まり、生徒の皆さんにとっては、通常の状態に近づいてきたことと思う。だが、本当の通常、言い換えれば昨年までの状態に戻る日が来るのかという甚だ疑問である。きっと多くの人たちが、同じように思っているに違いない。

現在行っている感染症対策をしなくてもよい日常が戻ってくるのはまだまだ先であろう。当分の間、それが数ヶ月あるいは1年や2年になるかはわからないが、現状維持のまま進んでいくしかない。

こういったときだからこそ、革新的な技術や大胆な制度改革をじっと待つのではなく、自分たちでできること、自分のまわりでできることを地道にやっていくことが大切なのではなかろうか。発想転換とまではいかななくても、少し見方を変える、違った角度から考えてみることをやってみると、案外状況が変わってくるかもしれない。見える景色が変わってくるかもしれない。

これからも新型コロナウイルス感染症とのお付き合いは続く。そのうち新手の見えない敵が現れるかもしれない。長期戦ではあるが、持久戦というよりは、総力戦という考えでいきたい。